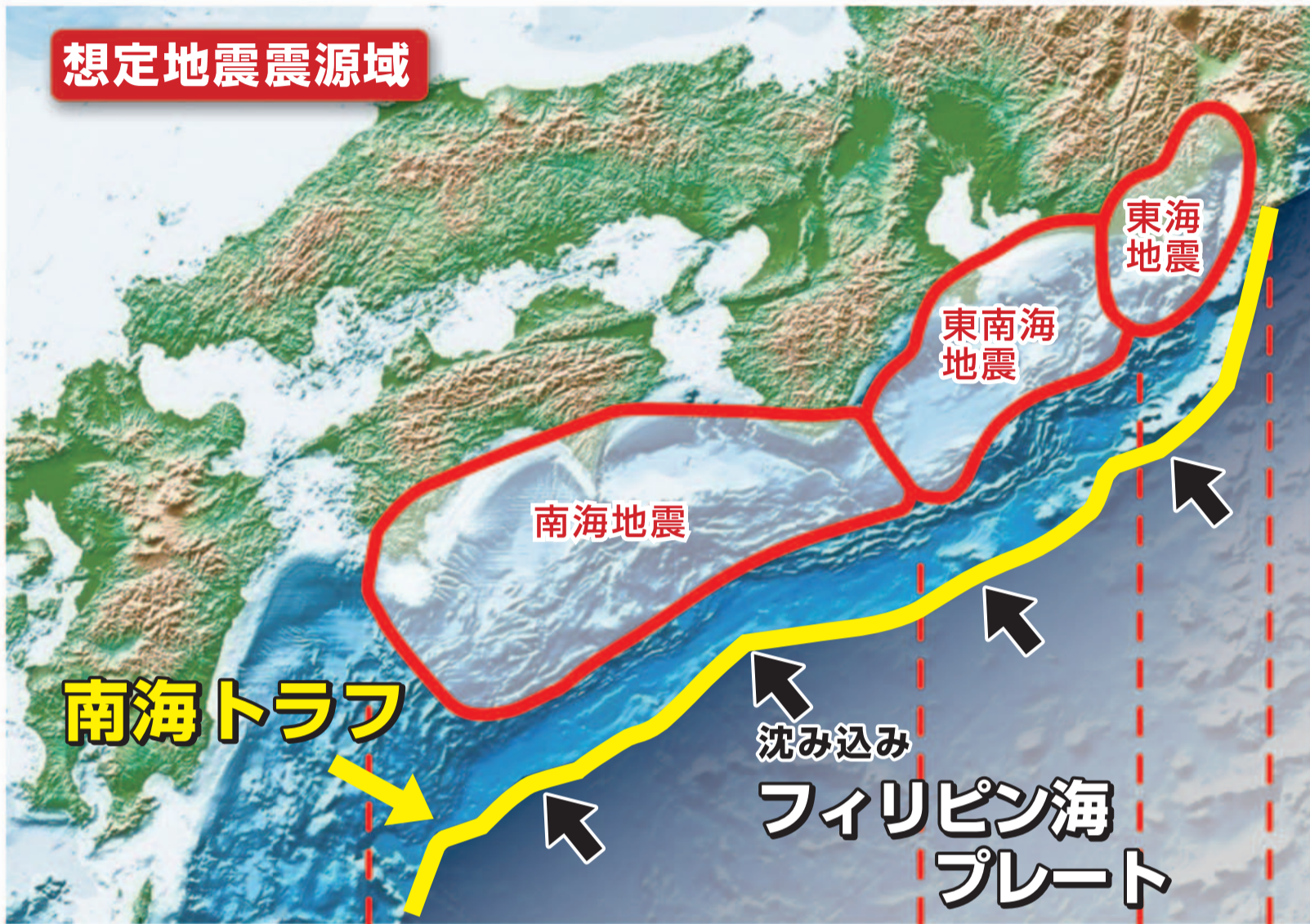




# あいち防災通信

## 第6号

●発行●  
愛知県・あいち防災  
協働社会推進協議会



東海地震・東南海地震・南海地震は同時に発生する？  
その研究の取組みを紹介します！



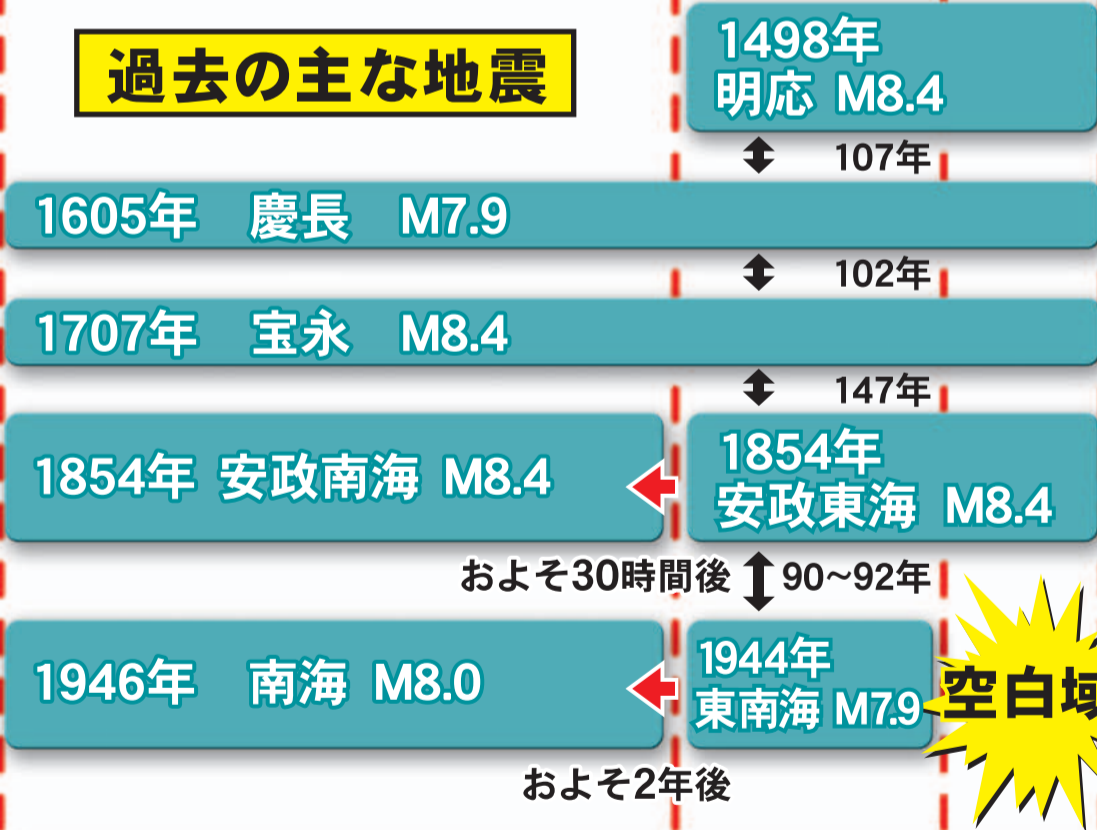
独立行政法人 海洋研究開発機構の金田義行さん

独立行政法人 海洋研究開発機構の金田義行さんは、プロジェクトリーダーとして、「地震・津波観測監視システム」の構築や「東海・東南海・南海地震の連動性評価研究」プロジェクトに携われ、その取組みは、平成22年5月22日のTBSテレビ「夢の扉～NEXT DOOR～」でも紹介されました。

今号では、その金田さんに、「東海地震・東南海地震・南海地震は同時に発生する？」として、お尋ねしました。

資料提供：海洋研究開発機構

### 過去の主な地震



### 連動発生の可能性？

※海溝型巨大地震  
…海側のプレートと大陸側のプレートが接する海溝で発生する巨大地震

問1：東海地震がもつづく起きるといわれて久しいが、本当に起きるのか？このまま起きないことはあるのか？

答1：東海地震・東南海地震・南海地震は、南海トラフにおけるフィリピン海プレートの沈み込みにより引き起こされる海溝型巨大地震です。東海地震の震源域ではおよそ年間2〜3cmの速度でフィリピン海プレートが沈み込み、着実に地震エネルギーを蓄えています。この速度は非常にゆっくりで、東南海地震(年間およそ4〜5cm)や南海地震(年間およそ5〜6cm)の震源域と比べても半分程度の速度です。しかし、地震エネルギーの蓄積が継続している限り地震は必ず起ります。過去の地震をひも解くと、これらの地震はおよそ100年から200年で繰り返し発生し、東海地震は単独で発生していません。

しかし、この事実もさかのぼることおよそ1400年間程度の情報にすぎません。プレートの沈み込みにより発生する海溝型巨大地震は、数千年、数万年さらにそれ以上の時間を費やして繰り返し発生していると考えられていますので、我々が知りうる歴史地震の発生パターンがすべてであると推測することはできません。

空白域